

チクングニア熱のカンボジアからの輸入例ー福岡市

保健科学課 梶山 桂子・沖田 智樹
宮代 守・佐藤 正雄

病原微生物検出情報

2012年7月、カンボジアから帰国したチクングニア熱輸入症例が確認された。患者は、カンボジアのシェムリアップを拠点に観光し、帰国後、デング熱様の症状を呈し福岡市内の病院を受診した。

検査は、デングウイルスについて、PCR, IgM ELISA, NS1 抗原イムノクロマト等を実施したが全て陰性であった。しかし、チクングニアウイルスの PCR を実施したところ陽性であった。この PCR 産物からダイレクトシーケンス法により塩基配列を決定し、チクングニアウイルス遺伝子であると確認した。

本症例では、受診時の症状ではデング熱とチクングニア熱を鑑別することが困難であった。また、両疾患のアフリカ・アジアにおける発生地域もほぼ一致するため、本症例のようにデングウイルスとチクングニアウイルスの検査を並行して実施することが重要であると考えられた。